

## 5 令和7年度町政懇談会の実施結果について

まちづくりの現状や地域に関わりの大きい事業などについて、私自身が直接町民の皆さまに説明し、ご理解をいただいた上で事業を推進することとが、「協働のまちづくり」や「開かれた行政」の実現に向けた第一歩であると考えています。

そのような考えを含め、町政懇談会を実施しましたので、その結果についてご報告します。

本年度の町政懇談会は、11月27日、28日、12月1日の3日間にわたり、34自治会を対象として開催しました。私にとりましては、町長就任後初めての懇談会となったことから、各会場において冒頭、私が目指すまちづくりの全体像について説明し、その後、町民の関心が高い「日高徳洲会病院の移転予定」「北星町開発予定地の考え方」「新冠インターチェンジの進捗状況」や「ヒグマの出没対応」などについて、プロジェクトを用いて説明を行ったところであります。従来は、町からの説明を「聞いていただくこと」が中心でありましたが、視覚的な資料を活用し、町政の現状を「見て」、そして「理解して」いただくことにより、より多くのご質問、ご意見をいただくことを期待して行ったものであります。

町政懇談会においては、日高徳洲

会病院の移転時期や国保診療所の閉所に関する事など、医療に関する質問が多く寄せられました。これらの意見を通じ、「安心して暮らせる生活環境」への町民の強い要望を改めて認識し、民間病院の移転改築事業をはじめとする医療・福祉施策の推進に、一層意を用いる必要性を感じたところであります。

また、ヒグマを中心とした有害鳥獣対策については、山間部で生活する方々をはじめ、今や市街地に住む町民も等しく不安を抱える問題であり、決定的な対応策が見い出せていないのが現状であります。町としては可能な限りの体制整備と国、北海道に対する要請などの対応について、迅速に取り組む旨を説明したところであります。

今回の懇談会においては、町民のみなさんからの意見・質問に加え、町として現在取り組んでいる事務事業について、出席者の方々からご意見を求める場面も設けました。

とりわけ、これまで月2回としていた町政事務文書の配付を、試験的に月1回に変更し実施していることについてご意見を求めた際には、「配付量の多さ」「周知事業の実施までの期間が長く、忘れてしまう」などといったご意見があった一方で、「月1回の配付でも変わらない」といったご意見もありました。これらの声を

踏まえた上での協議を深め、次年度の自治会長会議までに回数変更の可否を検討したいと考えております。

また、この度の町政懇談会は、各地域における懇談会とは別に団体との懇談会も計画いたしました。

12月5日には、女性コミュニティ会議、農協・商工会の各女性部との合同懇談会を開催し、女性の目から見たまちづくりについて意見を交わしました。例年実施している女性コミュニティ会議との懇談会は5回目となりますが、農協・商工会女性部との懇談会は初めての実施となります。懇談会では、生活に関わる身近な問題から町の将来など広範囲なご意見をいただきました。

いずれのご意見も町の課題を総合的に捉えたものであり、今後のまちづくり協議にたいへん参考になるご意見をいただいたと感じております。

更に、12月17日には、新冠町青年団体連絡会議との懇談会を開催する予定であり、新冠町を支える若い世代のご意見をしっかりと伺いたいと考えています。

なお、本年度の自治会を対象とした町政懇談会への総参加者数は前年度より12名増加の81名と、決して多い人数ではありませんでしたが、出席者からは「町政懇談会を継続してほしい」などの声が寄せられ、対面での意見交換が持つ意義を改めて

抱えている不満や不安が解消するわけではありませんので、今後も医療現場から寄せられる声や意向をしっかりと受け止め、可能な限り寄り添った対応に努める所存であります。

今回の住民説明会におきましても、全ての方々のご理解を得るには至っていないものと考えておりますが、国内有数の医療グループである徳洲会病院の建設は、町民の「安心して暮らせる生活」を支える医療体制の確保に直結するものであり、町民が等しく享受できる生活基盤の向上につながるものであると考えます。

町としては、町の将来像を見据えつつ、引き続き慎重かつ着実に、日高徳洲会病院誘致に係る関係事業を推進していく所存ですので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

## 7 AIONデマンドバス実証事業の実施状況について

町ではこれまで、町内巡回バスおよびコミュニティバスを運行し、地域住民の生活交通の確保に努めてまいりました。

これらの運行は定時定路線方式により、決まった曜日・時刻・路線で運行してきたところであり、総走行距離は1日当たりおよそ400キロに及ぶなど運行効率の面から改善の余地があるものと認識していました。特に近年は人口減少の進行に伴

確認したところであり、今後も継続して行く考えであります。

町民の皆さんの声は、まちづくりの根幹をなすものであります。町としましては、今後も町民の声に誠実に耳を傾け、可能な限り前向きに対応していく姿勢を堅持する所存でありますので、引き続きご理解とご協力をお願い申し上げます。

## 6 日高徳洲会病院移転改築に係る協議経過と説明会の開催結果について

日高徳洲会病院が当町へ移転改築を行う方針を公表して以降、同病院の町内移転に関し、多くの皆さんから歓迎の声が寄せられている一方で、隣接住民の皆さんからは、生活環境の変化への不安などの声もいただいております。

このことから、町は、本年2月5日および3月6日の2回にわたり地域説明会を開催し、可能な限り丁寧にご説明してまいりましたが、短期間の中で全ての方々のご理解を得るには至っていないものと認識しているところとです。

また町は、同病院の移転を機に、国保診療所の閉所を方針化しており、診療所の職員に対する処遇などの説明を本年1月29日に実施しておりますが、この説明会においても「職員が抱える不安を解消するには至っていない」との報告を受けているとこ

ろです。

そのような中、私が町長に就任した5月1日の段階においては、徳洲会との協議に進展が見られていなかったため、今後の方針決定や、説明会開催に向け、開院までのスケジュールの提示を求めてきたところですが、10月1日に、同法人の局長、および関係職員が来庁し、これまでの法人内の協議経過に加え、設計業務発注、加えて工事施工の関係から開業時期は、当初予定の令和10年から、令和12年春にずれ込む見込みであるとの報告があり、工事工程案も示されたところであります。

工程案では建築工事期間を約30カ月と見込んでおり、開業時期の延期はやむを得ないものと理解したところであります。

この際に、施設の老朽化が進行しており、津波の浸水区域に位置している特別養護老人ホーム恵寿荘について、日高徳洲会病院との医療連携も視野に入れ、同病院の建設敷地エリアに移転するとした場合、了解を得られるか否か協議を申し入れたところ快諾を頂きました。

このことから、日高徳洲会病院の建設スケジュールに歩調を合わせる形で恵寿荘の移転改築を進める方針といたしました。

なお法人側は、これらの内容を10月3日付の新聞を通じて正式発表し

ため、町としても10月7日にレ・

コードの森自治会および夕日丘自治会の各世帯へ文書配付によりお知らせしたところとあります。

これらを受け、11月26日に住民説明会を開催いたしました。これは私が町長就任後初めての住民説明会であり、説明会の冒頭において、町の将来を見据えた医療機関誘致の必要性について理解を求めた上で、これまでの協議経過および開業時期の延期について説明し、住民の皆さまからのご質問を受けたところであります。

出席者からは、予定地における建築物の配置に関する意見や、隣接地に予定する特別養護老人ホームの移転計画に関するご質問などがあり、地域環境の変化に対する不安も改めて受け止めさせていただきました。

また、地域説明会に先立って国保診療所職員に対する説明会を11月14日に開催しております。

説明会において、診療所は令和12年9月30日を目途とし閉所準備を進める方針であることに加え、退職に係る職員の処遇に関する考え方を示しました。また、閉所までの期間において、住民への医療提供に支障が生じないよう、診療体制の維持に向けた協力を職員にお願いしたところとあります。

今回の説明会においても、職員が